

《遺跡紹介》

Los Bañales 発掘調査体験記

— スペイン北部のローマ遺跡と地域社会 —

坂野水咲

1 Los Bañales の概要

2024年7月15日から28日までの約2週間、筆者はナバラ大学の Javier Andreu-Pintado 教授が主宰する、Los Bañales と呼ばれる遺跡の発掘調査に参加した¹⁾。Los Bañales はスペイン北部のサラゴサから車で1時間ほど北に向かった所にある、前1世紀から8世紀にかけて人々が暮らしていたローマ時代の遺跡だ。その名は発掘初期に発見された浴場施設に由来しており、近年の調査では前1世紀から後1世紀頃にかけての広場や住居、給水システムの跡が発見されている。町の正確な規模は調査途中のためまだわからないが、カエサルアウグスタ（現サラゴサ）とポンペイア（現パンプローナ）という2つの大都市を結ぶ道中に位置し、昨年発掘では旅人を迎えるモニュメントの痕跡が見つかったことから、その重要性に疑いの余地はない。



発掘調査の様子（手前側が北）
左端の2本の柱がこの遺跡のシンボルとなっている

ナバラ大学は15年近く Los Bañales の発掘プロジェクト²⁾を実施しており、その活動は日々 Facebook³⁾や Instagram⁴⁾などの SNS で盛んに発信されている。発掘成果の詳細は論文だけでなく書籍にもされている。毎年7月には学生向けに2~3週間の考古学プログラムを提供しており、スペインの学生にとどまらず他のヨーロッパの国々や南米からも多数の学生が参加していた。考古学や歴史学を専攻している学生は勿論、政治学や教育学など他の領域を専門とする学生もいる。更に2日間だけ地元やマドリードの高校生が参加したり、最終日には地域の人々を招いて調査の成果を説明するイベントを行ったりと、地域社会に広く開かれたプロジェクトであるという印象を受けた。

2 発掘と洗浄作業の日々

プログラム期間中のスケジュールは平日と休日で異なる。平日は

- 6:15 朝食・集合ののち、サバダのホステルから車で移動
- 6:30 作業開始
- 10:30 軽食・休憩
- 13:00 作業終了
- 14:15 昼食
- 15:30 ラヤナのラボにて出土品の洗浄・分類
- 18:00 自由時間
- 20:00 夕食

というスケジュールに沿って行動し、数台移動用の車を使えたため、自由時間には近くの湖で遊んだりバルで涼んだりしていた。湿気はないものの日中は40度に迫る日もあるほどに大変暑く、作業はお互いに水分補給を呼びかけながら進めた。休日は後述のように遠足へ赴いたり、遺跡の保全のため草むしりを行ったりした。

(1) 発掘作業

発掘は複数のチームに分かれて行った。南側の住宅エリア domus と、北側の水路エリア decumanus と、北東の住宅エリアの大きく3エリアであり、それに加えて発掘後にモルタルで補修をするチームが日ごとに別の場所を回っていた。帝政前期に特徴的な様式を持つ南側の住宅エリア domus のチームに筆者は振り分けられ、ツルハシやコテで固い土を掘って1世紀頃の層に高さを揃えたり、発掘範囲を広げるためにシャベルカーで崩した土をシャベルでひたすら取り除いたりした。そうした中で地中から出土したのはアンフォラや食器類と思われる陶器の欠片、牡蠣の貝殻、火を使用していた痕跡、壁画の欠片、屋根に使用されていたと思われるタイルだった。去年は decumanus に振り分けられていたため、流れ着いた陶器やガラス、文字の書かれた陶板、獣骨等様々なものを見つけたが、今年はキッチン関係

と思われるものが主だった。大きなものだと、部屋を区切っていた壁の土台と思われる長方形の石、石柱の円い跡が残る床石、扉の跡が残る床石が掘り進めるうちに姿を現した。そしてそれによってこの住宅が当初の想定よりも広大な可能性が芽生え、発掘範囲を拡張するに至った。プログラムの終盤になってくると機器を用いて高低差や各部屋の面積の測量を行ったり、3Dモデル作成のためにiPadで影が入らないようにデータを集めたり、記録用の写真を撮影したりした。

他のエリアについては、北東の住宅エリアで赤ん坊の骨が出土した。とても小さかったため、生まれてすぐ亡くなった子供なのか中絶した胎児なのかは判別が難しいらしい。また北側の decumanus では都市の外部へと排出される水路の掘削が進み、Los Bañales の水路システムが明らかになってきている。男性の頭をかたどった装飾も出土した。その重要性はともかくとして毎日様々なものが出土するので、どこで何が出たのかを全体で共有することはあまりない。10時30分の軽食休憩の際に「何か面白いもの見つけた?」「この後は何する予定?」とお互いに声をかけ、自分がないところでは何が起こっていたのかを把握するのがルーティンになっていた。



左：牡蠣の貝殻
右：測量の様子

(2) 洗浄・分類作業

遺跡からサバダの Hostel に戻り、シャワーを浴びて昼食をとったら隣町のラヤナにあるラボに移動する。そこでは主に、昨年の調査で出土した陶器の欠片や獣骨をブラシで洗浄し、分類していく作業を行った。色や感触、厚み、模様からその陶器の生産地や用途がわかり、それに従って分類していく。筆者はこの判別が正直かなり苦手だったのだが、プログラムの終了後マドリードの国立考古学博物館を見学していたら Hispania Romana のゾーンで全く同じように分類された陶器の展示があり、たしかに陶器の形に復元されたものを見ると

それぞれの特徴・差異が際立って見え得心がいった。この作業中は雑談をする余裕もあるので、同じ机に集まった数人で様々なことを話し、筆者はスペイン語のスラングを教わった。



ラボでの分類作業

ラボにはプロジェクターなどの設備があり、調査には多様な分野の専門家が参加していたため、洗浄作業ではなく彼らの講義を受ける日もあった。講義は3回行われ、①ローマ時代における陶器の生産方法と分類、②Blenderなどのソフトウェアを用いた3Dモデルの作成とそのオンラインデータベース化⁵⁾、③遺跡の修復及び保存、というテーマについてそれぞれ1時間ほど学び、質疑応答も盛んに交わされた。

3 近隣の遺跡への遠足

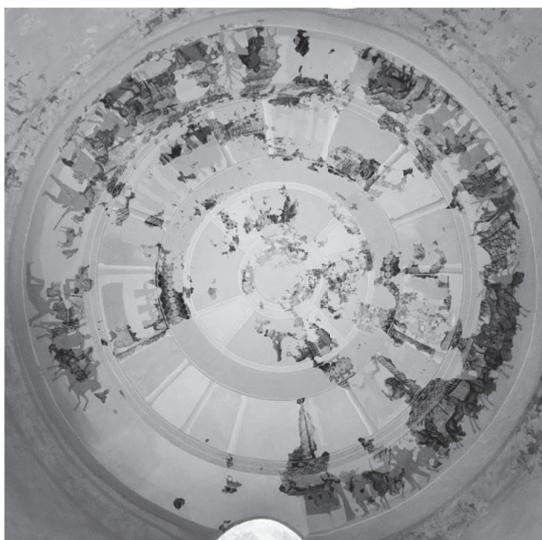
今年度のプログラムの特徴は、規模や調査の進み具合が多様ないくつもの遺跡に、週末や調査後の午後を利用して出かけたことである。昨年も同様のアクティビティはあったが、今年は回数を増やし、Los Bañalesを含む地域全体への理解を促すように力を入れていた。

(1) タラゴナ (7月21日)

スペインの東海岸、バルセロナの少し南側に位置するタラゴナは、ローマの時代にはタラコと呼ばれるヒスパニア・タラコネンシス属州の属州都であり、その遺跡群は世界遺産に登録されている。タラゴナはヒスパニアとガリアを結ぶ陸路と、ヒスパニアとローマを結ぶ海路双方の通過点であり、交通の要衝として栄えた。宿泊していたサバダからは車で片道3時間ほどかかる距離で、休日を丸一日使用しての遠足だった。

最初に訪れたのは、市街地から少し離れた場所にある *Conjunt romà de Centelles* という博物館だ。ここはかつて葡萄などを栽培していたヴィラであり、のちにキリスト教会に改築された建造物を利用した博物館で、小規模ではあるがヴィラの建築様式とキリスト教のモザイク画を見学できるようになっている。

その次に見学したラス・ファレラス水道橋や後日訪れたバルセロナのエジプト博物館においてもだが、案内や解説用のパネルが主にカタルーニャ語を使用していたこと（スペイン語や英語との併記ではなく、カタルーニャ語のみの案内）が印象的だった。



左：Conjunt romà de Centelles の天井に描かれたモザイク画
右：ラス・ファレラス水道橋

道なき道をバンで進んだ先にある採石場と、その石を使用した「スキピオの塔」と呼ばれるモニュメントを見学してから市街地に入って昼食をとり、戦車競技場や壁に埋め込まれた碑文などローマの痕跡が残る町を歩いた。これらの碑文はもともと皇帝と都市の使節のやり取りなどを記録し、かつては広場に集めて掲示されていたのだが、中世の都市改造の際に町の壁の材料として利用され散逸してしまったのだという。駆け足のスケジュールではあったが、海沿いの円形闘技場を見ることもでき充実した遠足だった。

(2) ハビエル城と発掘中のローマ都市（7月22日）

この日は今後発掘予定と現在発掘中の2つの遺跡と、ナバラの守護聖人であるフランシスコ・ザビエルが生まれたハビエル城を訪れた。ハビエル城はザビエルの生涯を紹介するジオラマから見学順路が始まり、直筆の手紙や掛け軸といった史料が展示されていた。

一つ目の遺跡は Sos del Rey Católico の草原で発見されたローマ時代の町である。ここは発見当初オリーブや葡萄などを栽培するヴィラだったと考えられていたのだが、調査が進むにつれ町であることが判明した。9月からドイツの研究チームが発掘を開始する予定だったため、訪れた時には調査の成果を見ることはまだできなかったのだが、現在はウェブ上で調査の様子や成果が公開されている⁶⁾。

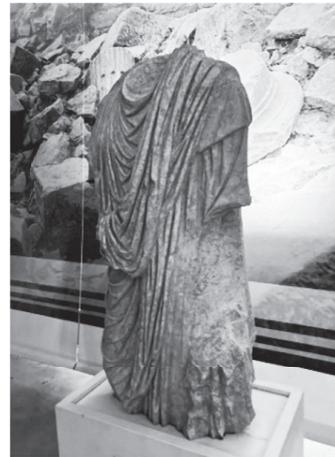
二つ目の遺跡はアラゴン州のアルティエダに位置する Forau de la Tuta である。こちらは現在発掘調査中で、5年ほど前に教会跡からローマ時代の柱が見つかったことで遺跡の存在が明らかになった。1世紀頃のヴィラや浴場、水路が出土しており、浴場の手前の更衣室と

思われる場所からは巨大な床のモザイク画が発見されている。更にローマ時代の遺跡の上に初期中世の建築物や城壁が重なっており、複雑な構造になっている。調査に従事している研究者が案内してくれたのだが、モザイク画の調査も含めもっと掘り進めたいと思っているが、機材や人手を増やすための資金がなく苦勞していると話していた。

(3) Santa Criz de Eslava と Castelliscar (7月23日)

エスラバの Santa Criz と呼ばれるローマ時代の都市は、ローマ街道沿いの山の上、ピレネーを望む高所に位置している。1世紀初頭に発展し、人口は1000人ほどを有していたが、45世紀頃に水供給の問題やゴート族が侵入する状況の中、放棄されたと考えられてきた。この町に所縁のある2人の学生が案内してくれたのだが、まだ都市全体のほんの一部しか発掘調査が進んでいないため、現在見学できるのはフォルムと共同墓地の2か所である。共同墓地はフォルムから街道沿いに少し下った場所にあり、高位の人物ほど都市に近い位置に埋葬されていたことを確認できる。

この遺跡から出土したものは、エスラバの町にある小さな博物館に収蔵・展示されている。神格化を示す裸足の彫像の欠片や、様々な神々の名を含む碑文やキリスト教徒のシンボルが刻まれた墓石、多様な副葬品が収められており、この都市における信仰の混交を見ることができた。



左：Santa Criz de Eslava のフォルム

右：博物館に収蔵されているクラウディウス期の彫像

Castelliscar では、12世紀に建造されたロマネスク様式の San Juan Bautista 教会にある、45世紀頃の初期キリスト教美術作品と思われる石棺を見学した。プログラムに参加している図像学専攻の学生の1人がこの石棺のレリーフを研究対象としており、彼女の研究報告も聞くことができた。



左：San Juan Bautista 教会の石棺 / 右：礼拝堂の MARIA 像

教会の上にはかつて城の礼拝堂だった小さな塔があり、そこには穏やかな表情のキリスト像、マリア像、ヨハネ像が佇んでいる。実は昨年も訪れた場所だったが、マリア像のポーズや表情が魅力的で心に深く刻まれていたため、この礼拝堂を再訪できることを筆者は楽しみにしていた。

4 成果の発信・地域とのつながり

発掘作業に従事していたのは学生や大学関係者だけではない。長年この調査に協力してくれている、地元住民の協力もプロジェクトには不可欠である。彼らは毎朝 Los Bañales にやってきて、学生たちと一緒にツルハシやシャベルを振るい、時に重機を操って土砂を運んでもくれた。彼らの家に招待されて、プールを使わせてもらい一緒に夕食をとる日もあった。

発掘の成果を地域社会に還元し、意義をアピールすることにもこのプロジェクトは力を入れている。論文や書籍⁷⁾の形でも調査結果は発表されているが、プログラムの最終日である28日に XVI Jornada de Puertas Abiertas para Toda la Familia (第16回オープン・ドア・デイ) というイベントが開催され、自治体の政治家らを招いたセレモニーや、学生たちによる今年の発掘成果の報告が行われた。



セレモニーの様子

イベントには450人もの方が訪れ、盛況のうちに終わった⁸⁾。お年寄りや小さな子供連れの家族も多く、毎年このような場を作り続けることで地域の人々の関心と理解を得て、プロジェクトを続けることができるのだと実感した。またイベント直前の26日にはアラゴン州の教育文化大臣である Tomasa Hernández 氏が視察に訪れ、彼女に調査の継続には自治体の協力が必要であることを伝える機会もあった。

5 おわりに

昨年も含めた本プログラムへの参加を通じて、筆者は考古学調査や遺跡保全の方法を学び、出土品の取り扱い方や記録のつけ方について習得してきた。しかし今年はそのだけでなく、現代とローマ時代の双方における、Los Bañales をとりまく地域社会についても知ることができたと感じている。このようなミクロな視点とマクロな視点の双方を意識しながら、今後も発掘調査に積極的に参加したいと思う。

【本稿は特別研究員奨励費 24KJ1458 の助成を受けたものです】

註

- 1) 昨年も京都大学大学院教育支援機構 (DoGS) 海外渡航助成金を利用し、1週間参加している。
https://www.kugd.kyoto-u.ac.jp/grant_dogs/
- 2) <https://en.unav.edu/web/school-of-humanities-and-social-sciences/students/programa-arqueologia>
- 3) https://www.facebook.com/LosBanales?locale=ja_JP
- 4) <https://www.instagram.com/losbanales/>
- 5) 出土品の3Dモデルを公開している Los Bañales Museo Virtual。 <https://sketchfab.com/banalesmuseovirtual>

- 6) Javier Andreu Pintado 氏による、当該遺跡の歴史と調査の様子を紹介するブログ記事。 <https://oppidaimperiromani.blogspot.com/2024/10/>
 - 7) Romero Novella, L. y Andreu Pintado, J. *El foro de Los Bañales de Uncastillo: Arquitectura y programas epigráficos, escultórico y decorativos*, Navarra, 2023; Andreu Pintado, J. Blanco-Pérez, A. y Alguacil Villanúa, E. (eds.), *Pecunia Commvnis: recursos económicos y sostenibilidad de las pequeñas ciudades hispanorromanas*, Navarra, 2023.
 - 8) イベントの様子はラジオやテレビ、新聞などメディアにも取り上げられた。例えば、García Vergara, I. “Los secretos que esconde Los Bañales, uno de los yacimientos romanos más relevantes de España” en; *El Debate* (2024.8.31). https://www.eldebate.com/historia/20240831/secretos-esconde-banales-yacimientos-romanos-relevantes-espana_222571.html
- ※ウェブページについてはいずれも 2024 年 11 月 26 日最終確認。